

# 会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度第1回上尾市図書館協議会	
開 催 日 時	令和5年8月7日（月）午後1時30分から午後4時00分まで	
開 催 場 所	上尾市図書館本館2階 集会室	
議長(委員長)氏名	代島常造	
出席者(委員)氏名	須賀聡、近藤博昭、岸清俊、山田浩一、廣美穂、加藤寛子、宮内礼子、大谷内久美子、代島常造、清水松代、村上篤太郎	
欠席者(委員)氏名	高村裕美	
事務局(庶務担当)	事務局、正木副主幹、久我副主幹、吉川主査、鈴木主任、岩崎主任、岩田主任、若林主事	
会 議 事 項	1 議 題	2 会 議 結 果
	(1) 報告 ①利用者モニタリング調査の結果について ②令和4年度上尾市図書館事業報告について ③令和4年度第3次図書館サービスの進捗状況について ④令和5年度上尾市図書館事業概要について (2) 議題 ①第3次上尾市図書館サービス計画の事業計画及び進捗管理について ②図書館本館更新方針について	
議 事 の 経 過	別紙「議事の経過」のとおり	傍聴者数 1名
会 議 資 料	令和5年度図書館利用者アンケート 上尾市図書館要覧（令和5年度） 資料1-1 第3次上尾市図書館サービス計画の事業計画及び進捗状況報告書 資料1-2 令和4年度第3次上尾市子どもの読書活動推進計画の実施状況について 資料2-1 令和5年度図書館事業概要 資料2-2 令和4年度子どもの読書活動支援センター事業概要 資料3 上尾市図書館本館更新方針（骨子案）	
議事のでん末・概要に相違なきことを証するため、ここに署名する。 令和 年 月 日 <div style="text-align: right; margin-top: 10px;"> <b>令和5年9月28日署名済み</b>                      議長（委員長）の署名 _____                 </div>		

## 議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項
事務局	<b>報告1 利用者モニタリング調査の結果について</b>
議長	報告①について意見、質問はあるか。
A委員	アンケートの結果についてはWeb公開されるのか。
事務局	既に公開している。
A委員	それを見て関心のある方からの質問や意見について、図書館の受け入れ態勢はどのようになっているか。
事務局	現状、質問等は出ていないが、質問や意見があった場合には真摯に受け止め、図書館にて回答する態勢をとっている。
議長	本議題については、以上でいいか。  (異論なし)
事務局	<b>報告② 令和4年度上尾市図書館事業報告について</b>
議長	報告②について意見、質問はあるか。
B委員	セカンドブックの読書パスポート配付事業については、とても立派な取り組みである。読書の記録として300冊本の題名が書けるようになっていて、300冊達成した生徒は校長室に来て、冊子の中の証明するページに名前を書いて判子を押すと喜び、生徒の読書の励みとなっている。1年生から6年生まで継続して活用している。 また、読書パスポート配布の際に読み聞かせを実施していただき、大変ありがたく、今後も継続していただきたい。
C委員	セカンドブックに関して、以前、学校図書館の関係の集まりに出席した際に他の自治体の方から、上尾市のセカンドブック事業についてお褒めの言葉をいただいたことがあった。 また、先日、夏休みの宿題のために中学生が“おひさま文庫”に取材に来て、「上尾市で何か褒めたいことは？」と聞かれ、最初に思いついたのがセカンドブックで、これは上尾市の自慢だと取材に答えたことがあった。
議長	10年位前、県内の市町村の子ども読書に関する計画を作っていた時、ブックスタートはほとんどの自治体で実施していたが、セカンドブックはあまり実施していなかった。とても素晴らしい取り組みだと思う。
D委員	レファレンスサービスの利用状況について、令和2年度から飛躍的に件数が増えているが理由は何か。  毎週火曜日のレファレンスデスクの設置が、市民に定着してきたことや、夏休

議長	<p>み期間中に子ども向けのレファレンスを行っていることなどのPR効果があり、市民のレファレンスに対する周知度が上がってきている。</p> <p>レファレンスは図書館サービスの中で一番知られていないものであるので、引き続き周知して行ってほしい。</p> <p>本議題については、以上でよいか。</p> <p>(異論なし)</p>
事務局	<p><b>報告③ 令和4年度第3次図書館サービスの進捗状況について</b></p>
議長	<p>報告③について意見、質問はあるか。</p> <p>(質疑無し)</p>
議長	<p>本議題については、特にないということによいか。</p> <p>(異論無し)</p>
事務局	<p><b>報告④ 令和4年度上尾市図書館事業概要について</b></p>
議長	<p>報告④について意見、質問はあるか。</p>
D委員	<p>図書館まつり等で他の課・機関と連携することはとても良いことで、それぞれの強みを生かして活動することでお互いの活性化にも繋がる大変いい取り組みであると思うので頑張ってもらいたい。</p> <p>もう1点、「学校の授業をきっかけに読書が広がる本のセット」について、大変素晴らしく、視野が広がるきっかけになると思うので、どんどん広げて行ってほしい。</p>
E委員	<p>児童館・小学校で読み聞かせを行う機会があり、年に1度図書館職員の読み聞かせ講座を受けているが、大変分かりやすく参考にさせていただいている。</p>
議長	<p>新しい取り組みの中で“書評合戦”とあるが、“ビブリオバトル”とは違うのか。</p>
事務局	<p>“ビブリオバトル”は、時間等がきっちり決められているもので、その通りに行わないと“ビブリオバトル”という名称はつけられない。参加者の人数等から上尾市独自の“書評合戦”という名称で行った。内容は“ビブリオバトル”とほとんど同じである。</p>
議長	<p>勝敗などは決めるのか。</p>
事務局	<p>参加者と見学者が1票ずつ投票し、チャンプ本を決める。</p>
A委員	<p>ここに書いてある事業計画はどちらかというとお子様あるいは青少年を対象とした事業が多いと感じる。実際の図書館利用者の割合をみると約4分の1が高齢者で、貸出に関しても3割以上が高齢者ということが分かるが、高齢者に向け</p>

事務局	<p>た音読会や認知症予防について何か考えていることはあるか。</p> <p>今年度の図書館まつりで、主に高齢者を対象とした法テラスと連携した法律講座、図書館寄席、健康講座として「かんたん・あんしん・火をつかわないおやつ」の講座に際し、あわせて認知症の人も楽しめる本や認知症を理解する本の展示を行う。</p> <p>また、支援センター事業の絵本セラピーでは、高齢者の方々に実際に本を読みながら話し合ってもらった事業を行っている。</p> <p>さらに、補助金事業として児童文学朗読会を行っており、約4、50名の大人の方に朗読会を行っている。</p>
事務局	<p>それに加え、郷土資料デジタル化にちなんだ講座の際に、高齢者に向けたWi-Fiの接続方法や上尾市の行政資料へのアクセス方法についての講座を行う。</p>
事務局	<p>もう1点、分館活性化事業において高齢者の方が多く参加されると思われる公民館講座と連携し、図書リストの作成及び提供することで図書館と公民館の相乗効果を期待している。</p>
F委員	<p>本の団体リサイクルについて、どんな団体を対象にしているのか。</p>
事務局	<p>市内の小・中学校、保育所、読書ボランティア団体が多く取りに来ている。最近放課後デイサービスの方も多く、閉架書庫において児童図書を提供している。</p>
F委員	<p>団体の中に学童はあるのか。</p>
事務局	<p>対象ではあるが、昨年度はなかった。</p>
議長	<p>本議題については、以上でよいか。</p> <p>(異論なし)</p>
事務局	<p><b>議題① 第3次上尾市図書館サービス計画の事業計画及び進捗管理について</b></p>
(G委員)	<p>(当日欠席のため事前に意見が提出された。全文原文のまま。)</p> <p>1 電子書籍の購入について</p> <p>環境配慮から「物の所有からサービスの共有への移行」という考えがあります。物を所有するといずれ廃棄(ごみ・燃やすと地球温暖化の原因となるCO2排出)へとつながります。また、運搬するのにも車のガソリン使用(CO2排出)へとつながります。</p> <p>電子書籍の貸し出し(配信サービス)は、廃棄・運搬に伴うCO2を削減できるという面でとても環境にやさしいものです。特に、現代の若者層は電子書籍に慣れている世代です。</p> <p>図書館が電子書籍を貸し出ししていることをもっと周知して(学校・駅等にポスター・チラシ配布、電光掲示板を活用など)こういった便利で簡単なサービスがあることを知ってもらう(認知度を上げる)ことが重要であると思います。</p> <p>2 照明のLED化</p> <p>省エネの観点からとてもよいことだと思います。人感センサー付き照明で無駄</p>

	<p>な電力の消費も抑えられるといいかなと思います。空調の買い替え、施設の断熱、窓の日射対策等も、省エネになりますので工夫すると電気代の経費も抑えられ環境配慮にもつながります。</p> <p>3 所有している自動車の見直し  今すぐには難しいと思われませんが、電気自動車・水素等エコカーの導入を考えるとよいと思われま。上尾市も積極的にSDGsに取り組むことを宣言しています。市役所と歩調を合わせて導入することを検討してはと思います。  特に書籍は重たいため、その分ガソリンを多く使用します。各学校に定期的に巡回している貸し出し本の運搬車からそれを導入してはいいかかと思ひます。</p>
議長	議題①について意見、質問はあるか。
H委員	<p>今、令和4年度の進捗について議題としているが、令和5年度の計画についての意見を発言したい。</p> <p>『計画項目2.3情報検索サービス等』の令和5年度の計画「(1)郷土資料のデジタル化」について、実際の電子図書館を見ても「上尾の摘田・畑作用具」が「地域資料」としてすでに掲載してあるので、「地域資料のデジタル化」というタイトルがいいと考える。</p> <p>もう1点、デジタル化したものについて電子図書館に掲載することはもちろん良いことだが、予算的な問題もあると思うので、図書館のホームページに掲載することも1つの手法ではないか。その場合には、資料全体ではなく目次だけを掲載することでも効果があると思ひます。</p>
事務局	<p>まず「地域資料」というタイトルの提案については、昨年の2月の当協議会でご審議頂いた事業計画の名称そのままである。変更するかどうかについては今後、検討させていただく。</p> <p>また、現在掲載されている「上尾の摘田・畑作用具」は生涯学習課の事業であるが、図書館と共同で進めている事業であることから先に掲載している。ただし、現在掲載しているこの「上尾の摘田・畑作用具」はPDF形式で掲載されており、我々が今、取り掛かっている郷土資料の電子化作業はEPUB形式という電子書籍型の電子データの形式で準備を進めている。EPUB形式とはPDFと違ってどんな媒体を使用して閲覧してもそれに合わせた形での掲載が可能であり、文字の拡大縮小をしてもページの割り付けに影響が出ないというメリットがある。今この電子データで提供できるよう作成を進めており、10月14日に控えている市政施行65周年記念事業に合わせてリリースすることを目指している。</p> <p>ホームページで掲載するというH委員の案はいい案であると思ひるので、今後、そういったことも踏まえホームページの拡充を図っていきたい。</p>
H委員	「上尾市史」は有料頒布しているが、こういった資料を電子書籍に載せていいのか。
事務局	電子資料として貸出し等を行う場合、公衆送信権等の権利関係で載せられない部分については、フィルターをかけさせていただく。現在権利関係に関する調整を進めており、最終的に完全な移植とならない可能性はあるが、可能な限り皆様にいち早く郷土資料を確認いただけるような体制を整えていきたい。
C委員	『計画項目2.9障害者サービス』と『計画項目3.5若者の自立支援』にそれぞれ、読書バリアフリーコーナーという文言があるが、これは「りんごの棚」を指しているのか。

事務局	お見込みのとおり。この事業計画は令和5年度の計画になるが、これは昨年度2月開催の第2回図書館協議会で設定した計画であり、この時はまだ名称が定まっていなかった。
C委員	桶川市など他の自治体でも「りんごの棚」という名称が使われているようであるが、全国的な名称なのか。
事務局	「りんごの棚」はスウェーデン発祥で、子どもの読書の障害を解消する棚とされている。上尾市では子どもも大人も対象としたもので「上尾市図書館りんごの棚」という名称にした。青少年の自立として就労支援の本や、視覚障害に関する資料を置いている。
C委員	マルチメディアデイジーは障害者手帳の有無に関わらず利用できるのか。
事務局	棚に置かれているものは誰でも借りることができる。読書に障害がある方向けのマルチメディアデイジーは事務室で保管している。
I委員	『計画項目3.3 青少年サービス』の令和4年度に図書館まつりのティーンズ読書会を実施しているが、これについての内容と周知方法について教えて欲しい。
事務局	「ミヒヤエル・エンデ」の“モモ”を課題図書とし、1か月前にその図書を提示し、参加者同士で感想を言い合うもので、中学校と高校の各校にPRし、特に上尾高校と連携を取り開催した。
I委員	今年度も開催を考えているのか。
事務局	今年度は参加型、集合型ではなく、推し本を紙に書いて提出してもらいそれを掲示するという形式を考えている。他に、図書館まつりの中で、ティーンズアートギャラリーという、図書と本に関係する絵を中学生から募集する。各中学校に参加のお願いをしている。 また、駅前分館に青少年コーナーを設置することから、そこに10月17日から22日までそれらの絵を展示する予定である。
I委員	『計画項目4.4 施設・設備』の事業計画を立てる段階で本館、分館の各施設の老朽化のことがあげられていたが、設備面の部分的な修繕ではなく、建物に関する話は進んでいるのか。
事務局	上尾市公共建築物管理実施計画の中では、図書館本館と一部分館が対象施設として位置づけられている。本館の老朽化はかなり進んでいるが、それよりも学校施設の老朽化がかなり進んでおり、そちらの優先順位の方が高いことから、分館の対策についてはまだ先になると考えている。本館は42年超えているので喫緊の課題として取り組んでいる。
I委員	PTAの立場から、学校運営協議会に出席した際に、地域の方から「集える学校がいい。その中に図書館があるといい。」という意見が出ていた。更新計画の中で一緒に考えていけるといいと思う。
事務局	公共施設を考える中で、他の公共施設の計画というのは図書館としても注視している。学校施設更新計画については、社会教育施設に関して学校と図書館は親和性があるということがアンケート結果に出ている。今後、分館等について考える場合には、1つの選択肢として学校教育との連携を図っていくべきと考えている。

J委員	<p>公共施設の見直しとして、市全体の経営ということから考えると、それぞれの施設がそれぞれ希望を出しても形にはならず、優先順位を決めたとしても必ずやどこからか不満が出る状況がある。上尾市としての大きなビジョンを持った上で、将来の子どもたちにどのような姿を残すかという話が出たときに初めて、みんなで検討ができるものだと思う。図書館は大事な施設。片や社会教育施設の中には公民館という体験型の施設として大きな意味を持つものがある。知識を深めるという役割を担うには図書館と公民館は両方なくてはならず、これらは両輪になるものとする。</p>
H委員	<p>『計画項目 2.1 レファレンスサービス』の自己点検評価が 4/4 から 3/4 に下がっているが、減点理由はこういったところか。</p>
事務局	<p>事業計画の目標の中でホームページでの周知を四半期に 1 回するとしていたが、達成できなかったため減点とした。</p>
H委員	<p>広報には必ず載せられるのか。</p>
事務局	<p>要望した回数だけ載せるということは難しく、基本的に年 1 回となる。</p>
事務局	<p>我々としてはまず自己点検評価においては足りなかった部分についてはしっかり説明して採点しようとしている。その後、この協議会の中で意見をいただいた上で、この採点は変わってくるべきものと踏まえている。であるので、委員の皆様のご意見として目的を達成しているということであれば、採点を見直したいと考えている。</p>
議長	<p>計画の段階で、「四半期に 1 回」とあるのは、媒体は様々で厳密に四半期に 1 回なのか、それともざっくり年に 4 回という考え方だったのか。</p>
事務局	<p>目標の設定当初は、周知を図っていく上では、ある一定期間に定期的に行うことの重要性を重視し、「四半期に 1 回」にこだわった。</p>
議長	<p>結果、何回だったのか。</p>
事務局	<p>「広報あげお」に 2 回、「みんなの図書館」に 1 回実施。ホームページでレファレンスの周知を行うという部分が不足していた。</p>
J委員	<p>自己評価はやったことの評価ではなく、やったことに対する効果について評価の方が良いと考える。全体的な評価の在り方を検討した方がいい。10 回やっても効果がなかったら評価に値しない。回数より質と考える。</p>
議長	<p>この項目の評価はいかがか。4/4 でもいいのではないかという意見もあったが、レファレンスの認知度は上がっているので、効果やアウトプットから判断すると達成していると評価できるが、そのプロセスを判断すると予定通りできなかったとなる。</p>
事務局	<p>本来であればこの項目についてはモニタリング調査で評価を得るべきものであったが、今回、項目として設定しなかったため、満足度等の計測が不十分であった。次回は効果で評価できるよう体制を整え、評価として現れれば採点したいと考える。</p>
A委員	<p>一連の評価を最初に見て、感動した。非常にきめ細かくやっていると感じる。回数と効果の 2 つの考え方があると思う。次回、効果の視点から評価すれば更に</p>

	<p>分かりやすく意味のあるものになると思うので、次回に期待する。</p>
議長	<p>要覧 26 ページではレファレンスサービス件数はあがっているが、その点は斟酌しないのか。</p>
事務局	<p>当該計画を立てたのは令和 3 年度末であり、この段階ではレファレンスサービスの目標としては「レファレンスデスクの周知」が重要であると考えていた。しかしその計画通りの周知活動ができなかったと評価している。本来、数字や外形的な評価を取り入れるべきであったが、それができなかった。</p>
議長	<p>ホームページで周知できない理由があったのか。</p>
事務局	<p>全体としてみれば我々のレファレンスの周知に対しての対応不足だったと考える。</p>
J 委員	<p>周知できたかできなかったかというよりは、方法として良かったのかどうかということが大切である。回数など細かい点にこだわるのではなく、半年に 1 回でも 1 年に 1 回でもよりインパクトのある周知ができれば効果は上がっていく。こういうものの捉え方が重要であると考え。</p>
議長	<p>事務局には委員からの評価を踏まえて改めて自己点検評価の検討をお願いする。</p>
事務局	<p>承知した。</p>
議長	<p>本議題については、以上でよいか。</p> <p>(異論なし)</p>
事務局	<p><b>議題② 図書館本館更新方針について</b></p>
議長	<p>議題②について意見、質問はあるか。</p> <p>(質疑無し)</p>
議長	<p>本議題については、特にないということによいか。</p> <p>(異論無し)</p>
議長	<p>先程の議題①についての補足であるが、最終的な第三者評価については、事務局と調整し、議長に一任いただくという形で進めたいと思う。</p> <p>(異論無し)</p> <p style="text-align: right;">以上</p>